

どんなにわずかなことでも

どんなに小さな川でも
最後は海につながる
つながる海と海は
海峡を行き来している

流されるのでなく
流れに乗ることだ
世の中の動きに
逆らうことはできない

深海泳ぐカメのように
深いところにその身を隠し
流れるような固い甲羅で
怯むことなく手足を動かし

どんなにわずかなことでも
抵抗を感じたことには
流れを素直に受け止めること
きっと大きな力が働いている

巻き込まれるのでなく
波に乗ってゆくことだ
たとえ遠回りでも
目標変えればいい

大きな海に生かされている
自分の位置を確かに感じて
振り回される事態を避けて
心を乱すことないように

静止画の湖

北のハズレの半島
思いもよらないところに
南の島国のビーチ
思いださせる湖

エメラルド色していても
人気のない静止画の風景
その水は赤い太鼓橋の
三途と呼ばれる川に流れ

家族と一緒に本当によかった
一人でなければ怖さも少なく
陽のさす湖広がる視界に
止まった時間 不思議な感覚

砂浜やけに白くて
心の疲れを癒してくれる
華やかなもの何もない中で
回るいくつかの風車

極楽と呼ばれる
心休まるこの浜に
やってくる人たちは
みんな真剣な眼差し

できれば再び訪れる時も
誰かと一緒に来ればいいと
臆病な僕は広がる視界に
吸い込まれるような不思議な感覚

ゆらゆら

ゆらゆら波に揺られながら
大人気ない浮き輪にすっぽりはまり
投げ出した足の上を撫でてゆく
太陽が温めた海面の流れ

久しぶりの海にやってきた
まして沖に浮かぶことなど
聞こえるのは波打つ音と
たまに響く海鳥の声

何もせずに浮かぶだけで
こんなにも気持ちいいものなのか

水中眼鏡越し見る晴れた空
たなびく雲とのツートンカラーで
口に入った飛沫わざと高く
噴き上げて自分の顔に戻ってくる

自然のゆりかご揺られながら
風之力 動き任せて
目の前のクラゲを見つけ
無性にあんみつ食べたくなる

何にも考えず流れる時
こんなにも満たされるものなのか

ゆらゆら波に揺られながら
大人気ない浮き輪にすっぽりはまり
投げ出した足の上を撫でてゆく
太陽が温めた海面の流れ

ららら

旅びとよ

思いつきでバスに乗って遠くの海
ここにくると計画していたわけでなく
晴れた空に期待を込め思い立って
今を忘れ癒し求め 気分を変える旅びとよ

旅びとなぜ旅をするのか
答えは言葉にできない
けれども一つ言えることは
どこかに自分を探してる

はっきりさせることでなく
ゆっくりと答えを探したいのかも

陽の眩しさ白く光り青い海に
遠く近く揺らぎながら散りばめられて
日常の喧騒からすっかり離れ
目の前広がる自然に 身を委ねる旅びとよ

旅びとなぜ旅をするのか
誰もが曖昧としてる
なぜならやりたいことに
理由などあるはずないから

誰にも気兼ねすることもなく
のんびり気ままに過ごしたいのかも

最後になりやっと思つたことは

最後になりやっと思つたことは
ちょっとしたボタンのかけ違いで
あの時のすれ違いの言葉から
取り返しがきかなくなっていた

どうせこうなることなら
もっと本音を言えばよかった

どうしてこんなことになったんだろう
同じこと考えていたはずなのに
もしかしたら違う価値観だったと
さみしいけど諦めるしかない

どうせこうなることなら
無理に合わせることもなかった
時間が経てばまたいつか
連絡できることあるかな

ないないない

60過ぎて楽になるはずが
(60過ぎて楽なはずが
働かないと暮らしてゆけない
(働かないと暮らせない
あと5年いや10年(もっと
頼りになるのは健康だけ

たまには旅行したいけれど
(たまには旅行したいけど
近いところでせいぜい1泊
どこに行くのも(車
泊まりなしではお酒も飲めない

ないないないない何もない
ないないないないお金ない
ないないないない暇もない
ないないない

休日やりたいことあったはずが
(休日やりたいことあった
早起きするだけすぐに疲れ昼寝
(早起きするだけすぐ昼寝
そのあと買い物(ぶらり
あまり買うものもないけれど

結局大したことできないまま
(結局大したことできない
いつもと同じ夜の寝床につく
(いつも同じ寝床につく
昼寝の分だけ(なんと
余計な睡眠が増えただけ

ないないないない何もない
ないないないない仕方ない
ないないないないやるせない
ないないない

自由な暮らし望みながら

毎日何かに縛られ続けてる
(毎日何かに縛られてる
9時5時の勤務(おわって
帰宅して食べて寝るだけ

たまには飲みに行くこともあるけど
(たまには飲みに行くけれど
人の悪口聞いただけで終わる
(人の悪口聞いておわる
体をわざと不調に(体を不調にしないと
付き合いことわるために

ないないないない何もない
ないないないない忍びない
ないないないない情けない
ないないない
ないないないない何もない
ないないないないつまらない
ないないないないしょうがない
ないないない

ないないない

誰のためでもなく

誰のためでなく 誰のものでなく
自分のために 歌ってきたけれど
こうしてたくさん 残したものは
きっと誰かに いつかは届くかも

この先は見えない いつまでかわからない
たくさんこの思い 枯れてなくなるまで

明日を信じて これからもずっと
いいことだけが 残るようにしてゆきたい

見えない人たちに 語りかけてゆく
むしろそのほうが 素直になれた
自分の中には 自分と思えない
こんな一面があることに気づいた

難しいこと考えず 気楽に続けたい
ふと浮かぶメロディが 出てこなくなるまで

これまでの失敗 嫌なことも全て
笑って聞いてもらえるようにしてゆきたい